

令和 5 年度 農山漁村振興交付金（山村活性化対策）
事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

令和 5 年度に実施された農山漁村振興交付金（山村活性化対策）の事業について、「農山漁村振興交付金（山村活性化対策）実施要領」（平成30年 3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知）の第 9 の 1 の（1）の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			R3	R4	R5		
和歌山県	白浜町	SDGs による白浜町 地域未来創造協議会	●	●	■	C	令和 5 年度の取組は、雇用者数では目標を達成したが、新商品数と売上の項目で目標未達となった。これは、既存商品関連の改良等に時間を要し計画が遅延したことが主な要因と思われる。しかし、本年度の改善対応が今後の現地法人における売上創出並びに雇用者数の維持及び増加への礎となることが期待できる。

（注 1）「事業実施段階」の凡例：○・交付対象年度（計画） ●・交付対象年度（実施済） □・目標年度（計画） ■・目標年度（実施済）

（注 2）「評価」の区分：A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）実施要領の第 9 の 1 の（1）の規定に基づき、第三者である中村 允から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は、以下のとおりである。

【第三者】

和歌山県工業技術センター 食品開発部 加工技術担当 主任研究員 中村 允

【意見聴取の概要】

地域資源の基本調査にて白浜町内の農家・林業関係者・山主・地元産業従事者などへ聞き取り調査を行ったことで、和歌山の名産でもある南高梅、川添茶、椿油、富田の水など貴重な資源の存在を白浜町内で確認した。しかし、異常気象による天候不順で農作物の安定的な収穫が年々揺らぐ事態に見舞われている。川添茶や南高梅でさえも収穫量の激減と、農家を危機的な状況に追い詰める事態が生じているため、未活用資源の更なる調達が急務となった。そこで、一定量が自生しており今後安定的に収穫が可能な椿や、白浜町内の熊野古道大辺路から発見された古道酵母などの原材料を活用したスキンケア商品の開発に選択と集中することで、持続可能な商品製造への調整を行った。また、マーケティング調査によるオンラインアンケートを実施し改良点を集約したことで、商品パッケージやリーフレット、SNS、ホームページなども言語化対応とリニューアルを行い、長期的な目線での事業環境の再構築を行ったことは評価に値する。一方、紀州材活用のためのサウナキットの開発と販売体制の構築は国産材の普及に一役買う

可能性を秘めており、今後の売上貢献にも期待される。また、地域内外の関係人口創出を目的とした廃校活用の地域交流イベントは地元新聞の紀伊民放にも取り上げられ、年々その規模と賛同者は増加傾向にあることは評価できる。これらを踏まえて総評すると、必ずしも目標未達による低調感を感じられず、むしろこれから事業を継承し運営する現地法人の事業基盤が強化され本格的な事業運営の体制が整ってきたものと感じる。